

県大 jiman

滋賀県立大学広報誌
第6号006
Jan. 2010



2月 3日	水	第8回琵琶湖塾 講師：村田晃嗣氏 (同志社大学法学部政治学科教授)
9日	火	金曜日の通常授業
10日	水	調整期間 (補講) 開始 (~11日)
11日	木	後期授業終了
12日	金	後期定期試験 (~19日)
18日	木	大学院入学試験 (人間文化学研究所生活化学専攻前期博士課程)
18日	木	大学院入学試験 (人間文化学研究所後期博士課程)
19日	金	大学院入学試験 (人間文化学研究所地域化学専攻前期博士課程)
23日	火	大学院入学試験 (環境科学研究科環境動態学専攻前期博士課程)
23日	火	大学院入学試験 (環境科学研究科環境動態学専攻後期博士課程)
23・24日	火・水	大学院入学試験 (環境科学研究科環境計画学専攻前期博士課程)
24日	水	大学院入学試験 (環境科学研究科環境計画学専攻後期博士課程)
25日	木	一般選抜試験前期日程

3月 1日	月	大学院入学試験 (工学研究科先端工学専攻)
12日	金	一般選抜試験後期日程
20日	土	学位記授与式
21日	日	春季休業開始
下旬		リサイクル市

4月 4日	日	入学式 (午前)、新入生オリエンテーション (午後)
5日	月	全学オリエンテーション、春季休業終了
6日	火	前期授業開始
中旬		定期健康診断 (学部3回生以上、大学院生)

5月 月上旬		第4回運動会<予定>
中旬		定期健康診断 (学部1・2回生、大学院生)
中旬		春季公開講座 (毎土曜日 5週間)

6月 6日	日	開学記念日
19日	土	湖風夏祭<予定>
下旬		ゲル (モンゴル式住居) 展示開始

7月 3日	土	体育会「京滋戦」<予定>
16日	金	月曜日の通常授業
17日	土	補講日
27日	火	調整期間 (補講) 開始 (~30日)
30日	金	前期授業終了

県大event calender

特集

つながれ県大 「座談会」	2
「つながり」紹介	
学生企画 県大ランチタイムズ ～腹が減っては学ばれへん～	6
県大Report	
Labo Report 県大jimanな研究室。今回は環境科学部 杉浦研究室です。	8
Class Report あの授業はどんな授業？今回は人間文化学部住環境設計演習Ⅰ～Ⅳです。	8
After School Report クラブ・サークルの紹介。今回は写真部とサムルノリサークルです。	9
県大 Book Review 今回は県大の先生が執筆した本を紹介します。	9
トピックス&インフォメーション 県大イベントカレンダー	10

「県大 jiman」について
琵琶湖と滋賀の自然をイメージカラーにし、胸を張って「自慢」する、明るく前向きに応援する気持ちをロゴにデザインしました。



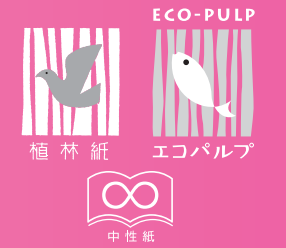
滋賀県立大学の広報誌「県大jiman」もついに6号目。滋賀県立大学が持つキラリと光る「jiman」なところを紹介する広報誌です。
今回の特集は「つながり」をテーマにしました。県大では学生だけでなく、地域の方やOBの方などのつながりをもって活動を行っています。みなさんの身近にも県大とのつながりがあるかもしれません。
今後も「県大jiman」をよりよい広報誌に育てていくために、今後ともみなさんのご協力をいただきたいと思いますので、ご意見・ご感想をお寄せください。
学生広報スタッフ大募集！
広報誌作成グループでは、県大jimanの作成に参加してくれる学生を募集しています。私達と一緒に、県大の素敵な「jiman」を紹介してみませんか。デザインの専門知識がなくても大丈夫です。興味のある方は、気軽にお問い合わせください。

from 広報スタッフ
県大を好きになれる一冊です♪ (人間看護学部3回生 林 怜史)
学食がステキな昼食を。 (環境科学部4回生 二瓶 莉苗)
県大とみんなをつなぐ県大jiman！ (人間文化学部3回生 寄川 弥生)
取材って楽しいけど難しい～！ (人間文化学部2回生 澤田 奈緒)
次の県大を担うのはあなただ！！ (人間文化学部1回生 八木 風輝)
大学で得る人とのつながりは大切ですね (工学部 河崎 澄)
座談会は楽しかったです。 (事務局 矢野 圭昭)

色んな人に出会い、色んな事を学びました！ (環境科学部4回生 浅井 千穂)
学食のメニューの多さに驚きです！ (人間文化学部3回生 田辺 京子)
親が県大jiman読んでた…！ (人間文化学部3回生 藤井 歩)
ゴールデンバランスメニュー食べます！ (人間文化学部2回生 中田 瑞季)

県大探しと本作りにみんな集まれ！ (人間文化学部 佐々木 一泰)
県大はどこまでもつながっていきます (事務局 田辺 善美)

滋賀県立大学広報誌「県大jiman」第6号
発行/滋賀県立大学広報委員会
編集/広報誌作成グループ
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
Tel.0749-28-8200 Fax.0749-28-8470
URL: www.usp.ac.jp/
E-mail: webmaster@usp.ac.jp
発行日/2010年1月29日



特集

つながり

県立大学が開学して15年を迎えようとしている。ゼミ、クラブ、サークルなどの活動もそれぞれの伝統が生まれ、また、先輩・後輩のつながりも強くなってきています。学生時代は多くの人の出会いがあり、人脈が広がる時期でもあり、そうした県大の縦や横のつながりを取り上げてみます。



▲H21. 12. 19 滋賀県立大学にて

1期生をはじめ卒業生を交え、座談会を開催し、先輩後輩のつながりや思い出を語っていただきました。

●先輩後輩というより仲間

林 自身、人間看護学部へ再度入学したことで、先輩後輩の幅が広がったように思います。他学部知り合いがいること、いろいろ情報をもらったりして、刺激を受けます。村上さんや上田さんの時は先輩がおられない中で学生生活が始まったのですが、その時はどんな感じでしたか。

上田 前例が何もない中で、自分たちで一から作れるという高揚感がありました。当時は全学で500人ほど、学部を超えて皆がだいたいお互いの顔を知っていました。そんな中で思いを同じくする者同士が自然につながって、また一方では競い合うようにして、いろんな活動やサークルが始まったような気がします。

村上 滋賀県立大学を元気にする会（以下、元気会）は、もともと自治会を作ろうというのがきっかけでしたが、だんだん好きなことをやろうということになり、県大語録（※）や餅つききの活動が始まりました。その頃の活動は、先輩後輩というよりみんな仲間という感じだったかなあ。



村上 悟さん
(NPO法人碧いびわ湖(旧滋賀県環境生活協同組合)代表理事。環境科学部環境生態学科1期生。環境科学部環境計画学専攻修士課程修了。茨城県でのNPO勤務、地元余呉町での大工見習いとボランティアを経て現職。子どもと湖が突っている未来を目指して、持続可能な「買い物」と「住まい」の普及をすすめている。)

林 県大は、先輩後輩の関係もわりとフラットで、なんでも気軽に話しやすい雰囲気

村上 一人ひとりが大事にされる。まじめなタイプでもやんちゃなタイプでもみんないっしょにままとまれるところがありますよね。何かをしようと動き出した時に誰かが手を貸してくれる、そういうところもすごいと思います。

●後輩へのメッセージ

玉井 今の県大生はまじめですね。授業にはよく出ます。でも飲み会はそんなに活発ではないし、もっとはじけるような部分があってもいいと思います。



玉井 大輔さん
(教務グループ勤務。環境科学部生物資源管理学科8期生。環境科学部環境動態学専攻修士課程修了。大学院時代は近江環地域再生学座でも学ぶ。湖風祭と滋賀県立大学を元気にする会で活動。現在、湖風祭実行委員会、滋賀県立大学を元気にする会顧問。)

林 学生時代は失敗してもいいから、いろいろなことに挑戦してほしいと思います。失敗の体験って今の間にしておくのがいけないかと思っています。

村上 県大に来てよかったという仲間が多かったと思っています。人が育つというのは無責任な言い方にも受け取れるのですが、ここ4年間過ごし、お互いの活動で刺激合う中で、レベルアップし自然と育っていたのではないかなあと感じます。後輩にメッセージを伝えるとしたら、その時やりたいことをやったらいいということかなあ。それは今も昔も変わらないと思います。

木津 誰でも言い出しつべになれるところがいいですね。規模の大きい大学では埋もれてしまうけど、この大学は一人ひとりの存在感があって、それがいいところだ

気があります。そういうのが伝統としてあるのかも知れませんね。

●地域を介したつながり

木津 私はゼミで地場産業の繊維を研究テーマにしていたことや「ファッションショー」の活動にも関わっていたのですが、地域の産業振興というかたちで、継続して先輩から後輩まで受け継いでいるものがあり、県大はすごいなあと思っています。

村上 県大のつながりは、地域を介したつながりなんです。地域の人から1期生の誰々を知っていて、その地域の人を介して今の学生ともつながっている。大学に入学した頃、どうやって地域に入ろうかと試行錯誤していたのを思い出します。

上田 当時は彦根の人々も県大生を関心と期待を持って見ていたと思います。私も一人の市民という感覚で地域の人と付き合いしていました。だから今でも付き合いをしている人が多く、自分の第二のふるさとのような存在になってきました。

村上 初めての学園祭は、今、テラスがある場所雪の降る寒い中でしたのを記憶しています。湖風夏祭は、江州音頭で地域の人を呼ぼう、と考えて元気会が二年目の夏に企画した「元気祭」の陣「元」がはじまりです。その後、湖風祭実行委員会が引き継いでくれて、湖風夏祭になりました。

●学生時代のつながりは10年後に生きてくる

上田 当時の仲間も私も今、共に30歳代。就職した連中は10年くらい勤めて、仕事の

とあります。いろいろな組織はあるけど、それはできたばかりで、みんなの力でどんなかたちにもしていけるといってメッセージをうまく伝えられたらいいと思います。

玉井 何をしたらいいのかわからないという学生が多いので、うまくそういうことを伝えたいですね。そのためには、こういう機会をもっと増やせるといいと思います。学生と教職員、そして卒業生が直接話をするような場をつくることも大切だと思います。

上田 当時のマインドもつながりも学生時代に芽生えたものは、まだ終わっていない気がします。つながりはむしろ当時よりも育っている。立場は変わっていますが、今の現役の学生がおもしろいことやろうと考えたら、私たちのつながりを活かして、応援できることは、彼らがいっぱいだと思います。と同時に、何かがライバルでもあります。いつでもかかっているという気持ちも、実は持っています。

林 みなさんの話を聞いて、歴史は浅いのですが、いろいろなかたちでつながりができていることを実感できました。長時間どうもありがとうございました。



林 伶史さん
(人間看護学部3期生。人間文化学部地域文化学科に9期生として入学。卒業してから人間看護学部へ再度入学。未来看護塾で活動するほか、県大Ji-man学生広報スタッフの一員として活躍。)

※県大語録
県大の1年間の様子や県大生の生の声などをユニークな編集方針でまとめたA5版の冊子。県大を元気にする会・県大語録グループにより発行された。平成8年4月に初版（第一巻）が発行され、第四集まで発行された。定価なし。

県立大学が開学して15年を迎えようとしている。ゼミ、クラブ、サークルなどの活動もそれぞれの伝統が生まれ、また、先輩・後輩のつながりも強くなってきています。学生時代は多くの人の出会いがあり、人脈が広がる時期でもあり、そうした県大の縦や横のつながりを取り上げてみます。

をたくさんの人の前でできることに興奮していました。やりたいからやるという感じでしたね。

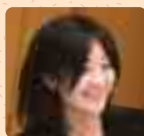
●やりたいことをやれて、それがかたちになる大学

林 今の県大生を見てどう思いますか。

上田 近江楽座や近江環人はうらやましいと思います。自分たちの時はこういう仕組みがありませんでした。社会人学生と机を並べて勉強できるのもとてもいい刺激になります。近江楽座の学生会員会ががんばっています。ああいう活動を通じてチーム同士が繋がっていきけばより素晴らしい展開になると思います。プロジェクトを動かしていく中で、学生が目に見えて成長していくのがわかります。

林 人間看護学部に入ってみて、自分やりたいことを考えた時に、近江楽座の未来看護塾があつて、そこでいろいろな出会いがあり、新しい発見がありました。

木津 大学でやってきたことと自分の夢が繋がっていったように思います。地域とのコミュニケーションをやってきたことにおもしろくて、編集者になりたいと思いが、それが今の仕事につながっています。やりたいことをやれて、それがどんどんかたちになっていって、社会にもつながっている。県大生は恵まれた環境にいると思います。

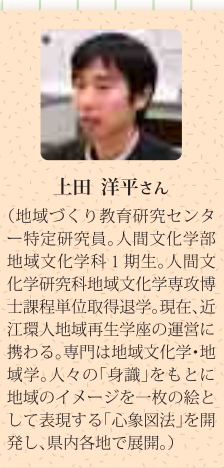


木津 奈緒美さん
(株式会社リクルート勤務。人間文化学部生活文化学科10期生。生活デザイン専攻では服飾のゼミに所属。卒業研究では、地場産業の繊維をテーマに取り上げ「滋賀の繊維力」として冊子をまとめた。湖風祭にも携わり、企業への広告集めやパンフレットの制作など広報を担当。)

木津 「ファッションショー」の場合は、大学に入った時からみんなが憧れを抱いていました。義務感でやるのではなく、みんながワクワクしてやっていますし、他の学部の人ができないような自己表現

村上 大学に入る前、親からも大学時代のつながりは10年後に生きてくるといわれていましたがそれは実感します。

上田 はじめの頃は、先輩後輩というよりみんなが良い意味でのライバルという気がしていましたね。どこかにあいつには負けたくないという気持ちを抱いていたように思います。



上田 洋平さん
(地域づくり教育研究センター特定研究員。人間文化学部地域文化学科1期生。人間文化学研究科地域文化学専攻博士課程単位取得退学。現在、近江環地域再生学座の運営に携わる。専門は地域文化学・地域学。人々の「意識」をもとに地域のイメージを一枚の絵として表現する「心象図法」を開発し、県内各地で展開。)

村上 活動していくうちに、あいつにはかなわないとか、あいつはこういうことが得意だというのが見えてきましたよ。そんな中で活動も淘汰されたり、役割分担が明確になっていったように思います。それと、つながりとしてつながったというのではなく、自分ひとりで何もうできないのでつながろうとしたという感じのほうがいいかな。



▲荒神山ロックフェス2009の風景

●キャンパスを越えたつながり3 学生がつくる“荒神山ロックフェス”

毎年8月下旬に、県大で“荒神山ロックフェス”が行われます。主に県大、滋賀大学、長浜バイオ大学の音楽サークルが中心となり、滋賀の学生が一体となって作り上げる音楽イベントです。春頃から会議を重ね、企画から実行まですべて学生が行います。その中で、仲間同士でぶつかることも多くありますが、その反面、自分たちの手でフェスを作りあげることによって、演奏する人、見に来て参加している人、地域の人、そしてスタッフが、音楽を通じてつながり、一体感を強く感じることが出来ます。また、他大学のバンドとお互いに刺激し合うことも、つながりになると感じています。9回目となる次回も、これまで以上に大規模なものにしたいそうです。ライブは来て、見て、感じるものです。ぜひ行ってみましょう！

●ここから生まれるつながり

高宮カフェプロジェクト“おとくら”

高宮のカフェプロジェクト“おとくら”は、江戸時代からあった蔵を改装して地域コミュニティの場として活用しようという動きから、学内でコンペが行われ、その中から採用されたものです。プロジェクトのメンバーは学生代表の三橋恵さん（人間文化学部4回生）をはじめとする学生約20人。夏休みの間にほとんど休みなしで行い、環境建築デザイン学科OBや左官職人の方にも作業を手伝ってもらいました。

蔵は主にギャラリーや喫茶おとくらに改装され、9月にオープンしてからは土日祝日に県大生が交代で営業しています。ギャラリーでは蔵のご主人のつながりで地域のアーティストの方の作品が展示されています。“おとくら”という名前は、「音と仲良くなって、人と人とのコミュニケーションのきっかけに」というコンセプトのもとにつけられています。実際に、オープン以来何度かライブが行われ、地域の方々とのつながりも生まれているとのこと。改修作業からギャラリー、カフェ、ライブと、あらゆるつながりに支えられているようです。



▲喫茶おとくらが入る宿駅「座・楽庵」



▲左から敬春さん、尋史さん、英康さん

●時を越えたつながり3

父の姿に憧れ、ものづくりの道にすすんだ三兄弟

長谷川英康さん（機械システム工学科平成17年度卒業）、尋史さん（同平成19年度卒業）、敬春さん（同4回生）の兄弟は、ものづくりの現場で活躍する父の姿を見て育ち、子供のころから工作や機械に対する興味が強かったそうです。そして、将来は自分もものづくりに関する仕事に就きたいと考えるようになり、工学部機械システム工学科に入学しました。

弟に県大への進学を勧めたのですか？という問いに対しては「まったく記憶にありません。」（英康さん）だそうです。二人の兄を間近に見ていた敬春さんは、県大での生活を「とても楽しそうだな」と思っていたそうです。

現在、英康さんは（株）川崎造船でLNG運搬船の生産管理の仕事、尋史さんはリンナイ（株）で加工技術に関する仕事を、敬春さんは人工関節用材料の加工に関する卒業研究を行っており、今後の活躍が益々期待されます。

「つながり」紹介

キャンパスや時を越えた様々なつながりが県大を通して生まれています。そんなつながりの一部を紹介します。

●キャンパスを越えたつながり1 地域を学ぶ“環人会”

環人会は、近江環地域再生学座（以下、学座）のOB・OG会です。学座を修了し、検定試験に合格することによって、コミュニティ・アーキテクトの称号が付与されます。つまり、まちづくりのリーダーとなる資質を持つ人々の集まりです。

学座の授業の一つ“コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ”では、学座生がそれぞれ決めた地域に入り、その地域が抱える問題に地元の人と共に取り組みます。そして、実習が終わり卒業すれば関係は途絶えるのではなく、振り返りの意味も含めて、「勉強会」を行っています。それが環人会の活動です。活動は約2ヶ月に1度行われ、1期生から順に、それぞれのプロジェクトの地域を案内し、他の環人会のメンバーがその地域について学びます。他の地域を学ぶことで、今までになかった人脈を広げることや、自分が関わる地域の問題の解決のヒントが見えてくる可能性があります。

他にも、環人会ではメーリングリストを使って情報を共有し、イベント参加募集や、環人会のメンバーがもつ人脈、情報をより多くの人に伝えることもしています。

学座では、大学院生だけでなく社会人も学んでいて、授業担当の先生方は毎回ちがうので、本当に多くの人々とつながっています。



▲高山市での「勉強会」

●キャンパスを越えたつながり2 県大でできる異文化交流

ミシガン州立大学連合日本センター（JCMU）はアメリカのミシガン州立の15大学で構成されるコンソーシアムで、彦根市北部の松原町にあります。そこではミシガン州に限らず、多くのアメリカの学生が学んでいます。

県大ではJCMUの学生向けに英語講義が2科目開講されています。2009年度後期の人間文化学部・人間文化学研究所が開講している英語科目「Japanese Culture and Civilization」では、JCMUの学生14名と県大生15名が、一緒に受講し、県内と京都にある寺院を訪れるなどして日本の宗教と文化を学んでいます。

また講義とは別に、学生インターンシップとしてJCMUの学生と県大生が英語で交流する機会があり、そこで仲良くなった県大生がJCMUへ遊びに行くといったつながりができています。JCMUの学生であるStefanie DeHartさんは「県大はキャンパスがきれいで、日本の大学に来ていて実感できる。」と、とても気に入った様子でした。

英語や留学に興味のある県大生にも貴重な体験となるはず。興味のある方は教務グループへ！



▲西本願寺での学外学習

●時を越えたつながり1

短大と県大の歴史をつなぐ“湖風会”

県大の前身である短大ではキャンパスが離れていたこともあり、各部ごとに同窓会が設立されました。それに加え県大の同窓会も設立され、それぞれが活動をしていました。以前からの「合併を」という願いが実を結び、平成18年に統合同窓会「湖風会」が設立され、平成22年4月からは会計も一本化され本格的な活動がスタートすることになっています。

短大工業部機械科卒業生の同窓会「彦機会」のテニス同好会が「湖風会テニスの集い」を開催し、テニスを通じて現役学生との交流を行うなど、新たな同窓会としての活動も既に始まっています。

県大同窓会会長の丸山麻美さん（環境科学研究科）は「就職支援など現役学生にメリットがある活動をしていきたい。県大を卒業したことに誇りを持ってもらえるような同窓会にしていきたい。」と意気込みを語っていました。

4月には湖風会のホームページが開設されます（現在は仮設）。メールアドレスを登録するといいことがあるそうです。http://kofuukai-usp.jp/



▲審判をする神吉さん

●時を越えたつながり2

後輩を支える硬式野球部OB

卒業後も県大硬式野球部に関わりたいとの思いから、初代主将の神吉（かんき）達夫さんは県大が所属する京滋大学野球連盟の審判員、連盟理事として活動しています。公式戦以外でも練習試合の審判、OB会の運営など、様々な場面で後輩達をサポートするなど硬式野球部に対する思いは人一倍です。

神吉さんからみた後輩達の良いところは、仲間（同期生・先輩・後輩）を大切にしている点で、今後は野球を通じて得られた人の輪を大切にして、大学生活とその後の人生を過ごしてほしいと願っているとのことでした。

前主将の中西匠さん（人間文化学部3回生）は、「1期生から現役選手までみんなのことを知っている神吉さんのおかげでOBと現役選手との距離が近く、OBのおかげで今の硬式野球部が成り立っていることに気づかされます。」とのこと。神吉さんの思いは後輩達に確実に届いているようです。

手作りお弁当派 7%



メニュー

環境科学部 保科 権くん

お弁当は、朝はやく起きることができた日など、週に2、3回作ります。それ以外の日は学食を利用します。下宿生なので、節約のため、また、健康のためというのがお弁当を作る理由です。お弁当を作る時間はだいたい15分。絶対作るものはたまごやきです。また、野菜を必ず入れることも心掛けています。

学食 オススメ★地産地消メニュー



- メニュー●
- ・ご 飯…彦根市新海町の安居さんのお米です。
- ・唐揚げ…卵は多賀町産、醤油は彦根市原町のかくみや醤油です。
- ・日替わり味噌汁…彦根市薩摩町産の味噌を使用しています。
- ・滋賀県産ほうれん草…彦根市稲枝町産のほうれん草です。

◆コメント◆
お米をはじめとして県大生協は多くの地元食材を利用してきております。人気No1の唐揚げにも地元の卵、醤油を使用するなど、美味しさの秘密に地元食材が関わっています。様々なメニューを食べて地元食材の美味しさをぜひ感じ取ってください。



●メニュー●	
おむすび鮭弁当	298円
ミルクティー	100円
合計	398円

環境科学部 平沢 陽さん

食堂の席がいっぱいで利用しづらい時、ショップでお弁当を買います。天気の良い日にはキャンパスでアヒルやカモを見ながら食べることができるのもショップを利用する理由です。お弁当を選んだのはパンやおにぎりを単品で買うよりも量があるからです。

11% SHOP派

人気学食メニュー トランキング ☆ BEST 5

主菜

1位 280円	2位 250円	3位 260円	4位 260円	5位 260円

1位 265円	2位 400円	3位 260円	4位 365円	5位 365円

#

めん

1位 380円	2位 380円	3位 225円	4位 230円	5位 225円

1位 105円	2位 135円	3位 105円	4位 65円	5位 85円

こぼち

デザート

1位 105円	2位 105円	3位 105円	4位 105円	5位 105円

1位 400円	2位 280円	3位 105円/100g	4位 380円	5位 380円

デザート

特別企画 アンケートに答えて、クーポン券をもらおう!!

食堂に設置するアンケートに答えると、クーポン券がもらえます。県大jimanと生協について自由な意見を聞かせて下さい。詳しくは、食堂とSHOPに設置してあるアンケートをご覧ください。(アンケートが無くなり次第終了します。ご了承ください。)

40% 学食派



メニュー

ライスSS	65円
味噌汁	30円
唐揚げマイルドソースS	170円
滋賀県産ほうれん草	85円

合計 420円

環境科学部 近藤 文さん

卒論で忙しくなる時期なので、体調管理のためになるべく栄養に偏りが無いように選んで(いるつもり笑)ます。最近は食べるのが専らの楽しみとなっているので、最後の年ということもあり、ふんばつしちゃうこともあります!でも貧血気味なので、鉄分を多く含む食べ物は必ず取っています。

最近はなかなか自炊もできないので学食の存在はとて有難いです。

生活栄養学科の岡本秀己先生に聞いた! ゴールデンバランスメニュー★



- メニュー●
- ・サバの生姜煮…血液サラサラ!
- ・豆 腐…豆腐は高タンパク・低カロリーで脳にも良い。
- ・鉄分たっぷり和え(ひじきでも可)…貧血対策に鉄分、カルシウムを摂取!
- ・日替わり味噌汁
- ・ご 飯 (1食分のエネルギーの半分が目安)
- ・乳製品(ヨーグルトや牛乳など)

◆コメント◆
主菜+副菜2品が理想。特に下宿生は、魚料理や豆腐などをとるようにして、バランスの良い食事を!特に魚は、週に半分、少なくとも2日は食べてほしいです。



メニュー

ご飯	持参
ジューシーミンチカツ	170円
れんこんきんぴら	85円
合計	255円

人間文化学部 草野 有美さん

ランチ代をちょっとでも節約しようと思い、ご飯は自宅から持ってきています。おかずは学食で、見ておいしそうだなあと選んだものを選んでます。おかずのメニューのなかでは、ササミチーズが好き。あまり頻繁にメニューに出てこないものをいろいろ食べようと思っています。

白ご飯持参派 23%

お昼休みの時間、学食やショップは美味しそうな香りで溢れています!皆さんは、どんなランチタイムを過ごしていますか。今回は、学生のランチ事情、学食メニューやその人気ランキング、プロが考えるランチメニューを紹介しします。

After School Report

サムルノリサークル

サムルノリとは、韓国の伝統芸能で4つの打楽器を使って演奏するものです。

発足のきっかけは、部長の松谷さゆりさん（人間文化学部3年生）。松谷さんは中学生のときからサムルノリをやっており、生活の一部となっていました。大学に入ってから公園で一人練習をするくらいサムルノリ好き。そして2008年10月にメンバーを集めてサークルを作り、まずはチャンゴという太鼓の練習を始めました。現在は2010年の湖風夏祭で発表できるように奮闘中です。

また、時々練習日にメンバーの家で韓国料理を作って食べることがサークル活動の楽しみの一つになってきています。太鼓をみんなで叩くと一体感があってとても楽しく、ストレス発散にもなります。まだまだ部員募集中なので、火曜日の放課後に覗きにきてくださいね。



活動日：毎週火曜
活動場所：A4-303
H P：なし
人数：7人

写真部

2009年2月に写真部はできました。主な活動内容はピクニック撮影会・講習会・写真展開催・フリーペーパー配布です。ピクニック撮影会は月に1回行い、京都市動物園や石山寺、夏休みには合宿で直島へも行きました。講習会では学内外から講師を招いて講義・実習をします。そして、写真展で各自自分の作品を発表します。たくさんの人に自分の写真を見てもらい、いろんな評価がもらえてとても刺激になりモチベーションがあがりました。フリーペーパーは春・秋と配布しました。これからも試行錯誤を繰り返しつつ充実した内容のものにしていくので楽しみにしてください。

部員は常に募集中です。部員それぞれ写真の色が違い、一緒にいるだけでとても刺激になります。ひとりで写真を撮っているあなた、ぜひ写真部へ！



活動日：毎月第1・3月曜日
H P：<http://photousp.web.fc2.com/index.html>
人数：23人

Labo Report

環境科学部生物資源管理学科・杉浦研究室（水産学研究室）

現場で学び、やりがいを見出す

水産学には様々なキーワードが含まれています。例えば魚の生態や漁業、増殖やバイオテクノロジーだけでなく、魚の流通、食品、地域の伝統や文化といった側面もあり多様です。杉浦研究室では、このような様々な側面から琵琶湖における水産の問題に取り組んでいます。

杉浦先生が一番大事にしているのは、『現場主義』ということです。研究室は、県大のすぐ近くにある滋賀県水産試験場と共同で研究・教育を行っています。もともと“水産”は現場から発生したため、「現場に触れないとつながりを感じられない、おもしろくない」と先生は考えています。ゼミ生も、現場で見た問題の解決を目指し日々研究に励んでいます。生き物を相手にするため、期待を裏切られることもあります。それも机上の勉強だけでは味わえない、現場での体験だからこそ。実際の現場で、様々な経験をさせている水産試験場の方々との活動は、視野を広げ、新しいことを多く発見する貴重な時間です。

「現場での実習で学んだことを活かして、自ら問題を解決していくなかで、本当の喜びややりがいが見つけられるはず。」と杉浦先生。このような場は、魚が好きで、将来魚に関わる仕事がしたい人にとって最高の環境です。

杉浦先生が担当している授業では、滋賀県の特産品・鮎寿司を作ったり、試食会を行ったりしています。これは滋賀県の食文化を継承していくという点でも大切なことですが、何より、学生自ら手を動かし鮎寿司を作ったという経験は、10年、20年経っても自分の中に残り、忘れないもの。これも、『現場主義』をモットーとしている杉浦先生ならではの経験です。滋賀県で水産の先生は杉浦先生一人。そのため、責任とやりがいを持ち、研究や授業でも様々なことに取り組んでいます。琵琶湖について、現場で学ぶことのできる研究室です。



研究室DATA

准教授：杉浦省三
研究室：B5-204
E-mail：sugiura@ses.usp.ac.jp
URL：<http://www.h4.dion.ne.jp/~corelax>
ゼミ生：(4年生) 田口貴史、若林裕子

Kendai Book Review

「琵琶湖のゴミ ～取っても取っても取りきれない～」

環境科学部環境生態学科教授
倉茂 好匡 著
サンライズ出版（2009）

琵琶湖湖岸にはたくさんのゴミがあることをご存知ですか？中でも、県立大学のすぐそばを含む琵琶湖東岸に多いことを知っていますか？

2003年の卒業生は、毎日湖岸に漂着するゴミと気象環境を調査しました。その関連を探った成果をまとめた本書を見てみると、その疑問が解決します。

湖岸に漂着するゴミにはどんな種類のものが多いのかも興味深いですが、特に面白いのは、湖岸のゴミの量と彦根市付近の風向きや波の動き、湖岸の地形との関係性。犬上川に沿って大学へ向かうとき、琵琶湖から吹いてくる強い風に苦労させられることがありますが、あの風が琵琶湖東岸にゴミが多い理由の一つだと、本書を読むまで考えてもみませんでした。

また、ゴミに印字されている賞味期限などから放置期間を推定した結果がまとめられています。製造年月日や賞味期限を調査することで、ゴミが環境中に存在していた期間がわかるだけでなく、ゴミを捨てたわたしたちの消費活動まで考えることができるというのは驚きです。

そのような関係性を知ることで、“ゴミが多いから問題だ。”で終わらない、新たな考え方でゴミ問題を捉えることができ

ようになります。ゴミ問題を、気象や地形との関係、という視点から見ることでできる1冊です。



この冊子は環境科学部の教員らによる「環境フィールドワーク研究会」が企画した「滋賀県立大学環境ブックレット」シリーズの第1巻として刊行されました。他に「フィールドワーク心得帖」（上・下）が刊行されており、順次刊行が続けられます。

Class Report

実際の空間をつくりながら考える

住環境設計演習 I~IV

生活デザイン学科専門演習科目
担当教員：土屋敦夫教授、宮本雅子准教授、山根周講師、佐々木一泰講師

生活デザイン学科には道具・服飾・住居の3分野があり、住環境設計演習は、その中の住居系分野の2年生から3年生に行われる設計演習です。2年生はインテリアから住宅建築といった住空間、3年生は住居併用の商業建築から集合住宅といった公共性のある住空間を設計します。演習では実際の建築物の見学や調査を行い、模型や図面が中心となる課題が行われます。その中に2年生と3年生と一緒にグループをつくり、湖風祭（学園祭）で実際に使用する屋台をつくる課題があります。

屋台の制作は、湖風祭実行委員会の協力を得て、実際に使ってくれる模擬店を募集し、使用する人とコミュニケーションを取りながら行われます。制作にあたっては3R（リデュース（ゴミの発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再資源化））をテーマにするとともに、湖東の厳しい風と雨に耐える



▼演習室での制作風景



▲4つの屋台

よう工夫します。

今年度は4グループが制作を行い、竹や壊れた傘、余った木材や使用済みPPバンドなど様々な素材を使用した屋台が湖風祭に彩りを与えました。

このように、模型や図面だけでなく使用する人たちとコミュニケーションを取りながら実際に作る事で、本来のスケールの空間設計の楽しさや難しさを考えることができます。またグループでの制作は段取りやコミュニケーションの重要性を考える機会にもなり、先輩から後輩に技術や設計手法の伝達も行われています。

Topics & Information

TOPICS

01

日本電気硝子
(株)と覚書の
締結

平成21年9月11日に、日本電気硝子株式会社と「産学連携の協力推進に関する包括協定書」の協定期間延長に関する覚書の締結をしました。

平成19年2月に「産学連携の協力推進に関する包括協定書」を締結し、寄附講座「ガラス製造プロセス工学講座」の設置をはじめ、共同研究、技術交流や相互の人材育成等に取り組んできました。これらの取り組みをさらに発展させるため、寄附講座の延長の申し出をいただき、本包括協定の期間をさらに3年間延長することとし、そのための覚書の締結を行いました。



▲日本電気硝子(株)井筒副会長(右)と本学曾我理事長

TOPICS

02

アウクスブルク
大学との交
流協定締結

平成21年10月21日、ドイツ連邦共和国バイエルン州にあるアウクスブルク大学を曾我学長、仁連副学長、堀部事務局長が訪問し、両大学の交流と協力を促進するための包括交流協定と教員、研究者及び学生の相互派遣に関する交流協定を締結しました。この協定締結により、教員や学生の相互交流が活発になることが期待されます。



▲アウクスブルク大学ボトケ学長(右)と本学曾我学長

今回の協定は、平成20年9月に締結した両大学の学術交流に関する覚書を基に締結することとなったものです。

TOPICS

03

「地産地消の
仕事人」に選
定

農林水産省が実施する平成21年度「地産地消の仕事人」に本学生協食堂前店長の梅田保誠さんが選ばれました。

平成12年に赴任され、調理師としてのキャリアと環境への取り組みの盛んな本学の環境を活かし、地産地消への取り組みを推進されてきました。その長年の取り組みと実績が評価され、今回の選定となりました。

梅田さんは平成21年11月に異動されましたが、今後も本学生協は地産地消に取り組んでいきます。



▲前列右から2人目が梅田さん

TOPICS

04

中庭テラスが
グッドデザイン
賞を受賞

本学食堂中庭テラスが2009年度グッドデザイン賞(社会領域・公共・文化教育関連施設)を受賞しました。



学生、教員と生協の協働、地元森林資源の活用、工期短縮のためのパーツのユニット化といった点が評価されました。

平成21年10月には、生活デザイン学科と生活栄養学科の学生が共同して、イベント「Nakanilwa+Cafe」を開催するなど、テラスを活用した取り組みも出てきています。

湖風祭レポート

今年の湖風祭は「一期一会」をテーマに11月6日〜8日に行われました。その期間、風は強かったのですが、天候もよく、たくさんのお客さんが来ていただきました。また夕焼けがきれいだったことを覚えている人も多いのではないのでしょうか。

さて、私は3日間湖風祭に行き、多くの模擬店やステージ、フリーマーケットを見ました。その中で私が興味を持ったのは、吹奏楽部のコンサートです。「天地人のテーマ」や「ヤッターマンの歌」など演奏もすばらしく、ときには遊び心を取り入れた演奏もあり、お客さんも楽しめるコンサートでした。

室内展示では写真部・美術部の作品が独自の視点で表現していたのが非常に印象的で、心動かされました。今年は15回目という節目の年ということで、実行委員会の方たちや各出し物をした人も力が入っていたと思います。今後も10年・20年と皆が楽しめる湖風祭を期待したいですね。



Information

受賞・表彰

- ・人間文化学研究所博士前期課程1回生 新森雄大さん
- 第1回文化遺産防災アイデアコンペティション優秀賞
- 第44回セントラル硝子国際設計競技 佳作
- ・人間文化学研究所博士前期課程2回生 桑山竜さん
- 第43回SDA賞 招待審査員賞、学生賞、関西地区デザイン賞
- 2009ディスプレイデザイン賞 入選
- ・人間文化学研究所博士後期課程3回生 城綾実さん
- 第23回社会言語科学大会 研究大会発表賞
- ・工学研究所博士前期課程2回生 片山雄貴さん
- システム制御情報学会2009年度学会奨励賞
- ・工学研究所博士前期課程1回生 武田暁洋さん
- 第5回ナノサイエンス・ナノテクノロジー阪大シンポジウム
- 若手研究者ベストポスター賞
- ・工学研究所博士後期課程3回生 神澤岳史さん
- プラスチック成形加工学会・成形加工シンポジウム09 ベストポスター賞
- ・人間文化学部生活デザイン学科佐々木研究室 2009年度グッドデザイン賞
- ・廃棄物バスターズ SIFE JAPAN 準優勝 ルーキー賞
- ・硬式野球部(工学部1回生) 川嶋遼さん
- 京滋大学野球リーグ戦(II部) 新人王、ベストナイン(三塁手)

人事異動

着任 平成21年12月1日付



山下 真裕子
人間看護学部 助教

退職 平成21年9月30日付

環境科学部環境政策・計画学科 講師 錦澤 滋輝

追悼 日高敏隆先生



平成21年11月14日、本学初代学長の日高敏隆先生(79)が逝去されました。

日高先生は動物行動学の第一人者であり、本学には開設準備段階から関わり、平成7年度から平成12年度まで学長を務められました。

「人は他のすべての動物と同じく自分で育つものだと考えてきた。人は粘土ではないから、こちらが思うように『作る』ことはできない。できるのはその人が自分で育つのを助けることだけだ。」(滋賀県立大学開学十周年記念誌「より」)

本学の「人が育つ大学」、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」といったキーワードや「人間学」はそんな日高先生の持論から生まれたものです。開学から15年が経ち、大学を取り巻く環境も変わりましたが、日高先生の志は受け継がれています。心よりご冥福をお祈りします。